

# 教育研究業績書

2023年05月08日

所属：看護学科

資格：教授

氏名：久米 弥寿子

研究分野	研究内容のキーワード
基礎看護学分野	看護教育, コミュニケーション技術, 看護診断
学位	最終学歴
看護学博士	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 自己学習用教材の作成	1996年4月～2007年3月	担当の「生活援助技術論演習」「コミュニケーション技術論演習」「教育指導技術演習」「アセスメント技術演習」において、ケアの技術習得のためには、視覚的に反復学習する必要性が高いため、静脈採血、体位変換、全身清拭、洗髪等の基礎看護技術のデモンストラーション映像をビデオ化した。また、学生の自己学習用教材づくりを行って、ラーニングリソースセンターに映像データをストックすることによって、学生自身で映像を自主的に再生し、予習復習が可能となるよう、学習環境の整備に努めた。
2. 大学・病院連携による臨床実習のあり方の	2005年4月～2007年3月	担当の「基礎看護学実習」では、効果的な臨地実習のために、実習目的や方法を大学と臨床で双方が十分に意見交換して実習病棟の選択や指導体制を検討した。特に、実習で実施可能な看護技術項目の内容と実施状況を継続的に調査し、その実態を示すデータに基づき、臨床との連携のもとに実習目的に適する実習病棟の選択や環境調整を行った。
3. 教育シミュレーター開発協力・補助	2006年4月～2007年3月	担当の「教育指導技術演習」において、身体侵襲を伴う看護技術の学習に不可欠のシミュレーター開発に関して、学生がどのように捉えたのかといったモデルに対する意見収集の補助を行った。特に、静脈採血シミュレーターのモデル開発にあたり、教育指導者という観点から、実際の初心者学生の学習効果を検討し、意見交換した。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 「これからの看護研究－基礎と応用」	2000年10月	担当の「特別研究」および「看護倫理学特論」において、研究の基礎と応用、倫理的配慮の実際面の理解を助けるために部分的に教材に使用した。研究の意味を理解して流れを把握し、どのようにテーマを発見していくのかを初めて体験する際、本書の研究事例を見ることで方向性を得やすく、基礎資料として利用した。また、書き方の例などもあるため、モデルとして自分の研究を進める際のガイドとして学生に活用されていた。
2. 「看護理論－理論と実践のリンケージ」	2006年3月	非常勤講師として担当の「看護学概論Ⅱ」（2年生前期・分担）において、基礎的な看護理論の概説を行った際、教材として部分的に使用した。また、看護協会ファーストレベル研修の講師として「看護理論の歴史と変遷」を担当した際、看護理論を実践と結びつけて学習できるようテキストとした。本書は、基礎的な理論の理解から実践とつなげる応用編まで学習できる内容となっているため、基礎的レベルから臨床的視点で学ぶ対象まで幅広く活用可能であった。
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 大学附属病院緩和ケア・看護外来活動	2002年4月～2007年3月	大学と病院との連携による緩和ケア看護外来の開設準備と外来活動に携わり、がん看護専門看護師と協働して心理的側面のアプローチを中心に緩和ケア外来の運営や実施補助に参加した。
2. 病院内の看護診断事例検討会、看護診断、看護過程研修会講師	2011年4月～現在	1回/月～1回/3か月の頻度で看護診断・看護過程に関する講義や事例検討会の講師及びアドバイザーとして参

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
3. 臨床倫理事例研究会の事例検討会	2011年7月～2013年2月	<p>加した（住友病院・箕面市立病院・千里中央病院）。特に、看護実践で看護診断過程・看護過程を展開する上で必要な看護診断や看護過程の基本的なプロセスや構造、分析や統合の視点、事例検討のポイント等の基本的な知識に関する講義を行い、その後、事例展開に基づいて、実際的な看護診断や看護過程の運用に関する助言を行っている。</p> <p>臨床倫理事例研究会に参画し、臨床で発生する倫理的なジレンマを生じる問題に対して、看護専門職である検討会参加者が倫理的観点から討議する際の進行および意見集約担当のファシリテーターとして参加した。</p>
4 その他		
1. 大阪大学「ターミナル期がん看護－理論と実践のリンクエージ研究会」企画・運営	2002年4月～2007年3月	<p>大学と臨床の実践的側面と研究・教育の連携を促進するため、講義や症例検討、研究発表、研究指導などを行う研究会発足に参与し、定期的な研究会の運営を行った。特に、大阪大学医学部附属病院の看護師との連携だけにとどまらず、地域の複数の病院の看護師との連携を図り、複数の施設間の情報交換や研究的指導の場を提供した。</p>

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. カラー写真で学ぶ基礎看護技術1－病床環境・バイタルサイン・清潔	共			
2. カラー写真で学ぶ基礎看護技術3－食事・排泄を中心とした技術と診療に伴う援助	共			
3. 看護倫理学 看護実践における倫理的基盤	共			
4. これからの看護研究 第3版	共			
5. 看護理論－理論と実践のリンクエージ	共			
6. 実践へつなぐ看護技術教育	共			
7. 新しいがん看護	共	1999年6月	ブレーン出版	<p>がんの予防から治療・ハビリテーションという全般的な経過における精神的・身体的・社会的・霊的な全人的がん看護ケアに関する理論と実践に関する内容で構成されている。</p> <p>本人担当部分：「がん予防と早期発見に関する看護」を担当（p.28-58）。がん看護における予防の意義とその根拠について調査結果に基づいて述べ、がん看護の果たす役割について検討した。共著者名：大場正巳、遠藤恵美子、稲吉光子、久米弥寿子、久保五月、数間</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
8. これからの看護研究	共	2000年10月	廣川書店	<p>恵子、武田祐子、佐藤蓉子、嶺岸秀子 他                      教育、臨床の場で看護研究を実施する際の指針となるものとして、基礎編と応用編とに構成して概説している。基礎的な部分では、研究過程に沿って看護研究の意味、研究テーマの発見の仕方、研究計画の立て方、実験研究、調査研究、事例研究、文献検索の実際、データ分析、統計的手法、論文構成のまとめ方、学会発表の仕方などを集録した。応用編では、文献研究、実験研究など、基礎編で解説した各研究の実際の具体例を示すとともに、これからの看護研究についても詳述した。</p> <p>本人担当部分：「コンピュータによる文献検索」を担当（p.91-110）。実際の看護研究における文献検索の意義とコンピュータによる文献検索の具体的な方法と学習課題について述べた。共著者名：大場正巳、遠藤恵美子、稲吉光子、久米弥寿子、久保五月、数間恵子、武田祐子、佐藤蓉子、嶺岸秀子 他</p>
<b>2 学位論文</b>				
<p>1. 一般青壮年層のがん告知についての態度とそれに関連する要因 - 企業就労者における分析 -</p> <p>2. ロールプレイング演習における看護学生の言語的・非言語的コミュニケーション行動の特性とそれに関連する要因に基づく演習プログラムの開発</p>	<p>単</p> <p>単</p>			
<b>3 学術論文</b>				
<p>1. 基礎看護学教育における臨床場面への早期暴露とグループワークを関連づけることによる学習効果</p> <p>2. 本学看護学生の日常生活の実態調査 - 看護教育の視点からの分析 -</p> <p>3. がん告知に対する態度とそれに関連する要因 - 青年期・壮年期にある就労者の分析 -</p> <p>4. 基礎看護学における看護技術の指導法の検討 - 問題解決技術領域の指導法 -</p> <p>5. 基礎看護技術教育における実際の看護行為に関連づけた生活援助技術領域の指導法の検討</p> <p>6. 末期がん患者の痛み管理と緩和ケアに対する妨害因子</p> <p>7. Validation of the Defining Characteristics of Body Image</p>	<p>共</p> <p>共</p> <p>単</p> <p>共</p> <p>共</p> <p>共</p> <p>共</p>			

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
Disturbance in Japan 8. がん患者の疼痛管理の妨害因子に対する看護婦・医師の認識と知識・態度・関心度 9. 基礎看護学教育における治療関連技術領域の指導法の検討 10. ターミナル期にあるがん患者の苦痛の分析－看護記録によるターミナル初期と終末期の苦痛の比較－	共  共  共			
<b>その他</b>				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 基盤研究(C) 基礎看護学における看護技術の指導法に関する研究 2. 奨励研究(A) コミュニケーション技術の教育方法の検討－視線の動きの測定評価に基づく自己学習法の開発－ 3. 基盤研究(C) ターミナル期にある癌患者の痛みの管理とサポートケアを妨害する諸因子の抽出とその対策 4. 奨励研究(A) 人間関係技術領域におけるロールプレイ学習による態度育成 5. 若手研究(B) 行動コーディングシステムによる看護学生のコミュニケーション技法の解折－モデル化と教育評価に基づく指導法の開発－ 6. 基盤研究(C) 看護診断の正確性と看護ケアの質の評価に基づく教育プログラム 7. 若手研究(B) 看護学	共  単  共  単  単  共  単			

